民学同

11訪米阻止へのアプローチ シリーズ No.1

安保破棄、沖縄基地撤去 即時全面返還、佐藤内閣 打倒を組織労働者と固く連帯して闘い取れ！

11月佐藤訪米阻止斗争は70年安保斗争の中心的闘いである

全市大の学友諸君！

11月半ばに予定されている佐藤訪米は、67年の佐藤訪米以来続けられて来た日米間交渉の総仕上げとしてある。その内容とは、米にとっては、ベトナムで象徴的に現わされている様に、アジアからの一定程度の後退を余儀なくされているにもかかわらず、アジアでの自らの影響力を温存せんが為に、朝鮮半島における挑発等露骨な緊張政策をとり続けており、その要石として沖縄が存在し、そして自国の帝国主義メルジョマジーのつき上げにより繊維問題に顕著に見られる如く自主規制を日本に要求しようとするものであり、他方日本にとっては、米帝のアジアからの後退にあって、それの肩代りとして、しかも65年以降国内の帝国主義的再編を着々と進めており、その「成果」を世界的に明らかにすべく、沖縄の核付き返還の策動としてある。

我々は、はっきりとかかる内容を確認し、佐藤訪米阻止の闘いとして、位置付けなければならない。しかも、70年安保斗争が、以前の60年安保とは違って、明確な政府との対決点へ回会での意志決定がない故に、この訪米阻止斗争を闘う中で、我々反独占勢力の巨大な前進をもち取る中で、我々の側から政府独占に対し攻撃的な闘いを組織せねばならない。その意味においても、この11月佐藤訪米阻止斗争は、70年安保の中心的斗いである。

沖縄の核付き返還策動を粉砕し、安保破棄、非武装中立の日本を打ち建てよ！

今年の通常国会において、佐藤政府は、今までの沖縄に関する白紙状態から一歩脱し、「沖縄は米施政下にある。従って基地は自由使用であり、また特別の装備へ核のこともある。この現実を踏まえ祖国復帰を実現し、我国の安全を確保することが問題だ」と明確に、沖縄の核付き返還策動を企んでいる。ここで明確にしなければならないのは核付き返還策動が決して米帝によって押し付けられたものではなく、日帝が東南アジアへ海外進出しようとする野望を果たさんがために、自ら主体的にとりくんでいると言うことである。それ程までに、日帝の経済的力が増大しているのであり、それ故に日帝の反動性が大きくなっているのである。

以上を踏まえるならば、訪米阻止闘争は米日反動分子ではなくて、はっきりと70年代を海外侵略で乗り切ろうとする日本独占の安保構想全体に対する闘いとして、とりわけそれを露骨に企図する佐藤政府を打倒する闘いとしてあることを、確認しなければならない。そしてそれが、沖縄を通して策動されている以上、我々は、沖縄核基地撤去即時全面返還のスローガンを高々と掲げ闘わねばならない。

この任務は、先の10・21闘争でも明らかになった如く、職場でのストライキを含めた組織された労働者の圧倒的な決起によってこそ果し得るのであり、我々はそれとの強固な連帯をかちとることこそ、現在問題になっているのだ。そしてひひる闘いに支えられてこそ、安保破棄の現実的な力関係が構築しうるのである。我々は、安保破棄の展望を

佐藤訪米阻止学生共斗

市大実行委

主要には、現実的要請として、反独占勢力側での闘う主体の形成（力関係の有利な転換）に求めるけれども、それはその前提として、経済的には、日本帝国主義は、対米依存、或いは協調によらなくても自活していけるということを銘記しておかなければならないだろう。問題になっているのは、その自活の内容である。つまり東南アジアへ帝国主義的進出（＝侵略）を行う自立か、それとも対社会主義国との貿易による平和共存的自立かであり、我々・断固として、11月佐藤訪米を闘う中で、反独占努力の力を増大し、それを背景とし、日本独占をして、後者の道をとらせなければならない。それが我々の提起している非武装中立の日本を創出すると言うことである。

10・21全関西共斗、10・21全都実行委の共同呼びかけによる佐藤訪米阻止全日学生共同斗争実行委の旗の下、佐藤訪米阻止斗争を圧倒的に斗いぬこう！

全市大の学友諸君！

すべに、11月佐藤訪米阻止斗争の意義とその斗いを通じての今后の展望が明らかになった時点で、次には如何に斗うかである。

それは、10・21斗争でも実例の力で示された如く、職場、生産点でのストライキを含めた労働者の組織的な戦闘的な決起に支えられた斗いであり、それとはっきりと連帯する斗いである。10・21斗争においてかかる原則的斗争を大衆的に組みえたのは、唯一我々の参加した

10・21全関西学生共斗であったことは、自信をもって全学友の前に総括すると共に、この11月佐藤訪米阻止斗争も、かかる原則的斗争を展開する我々と共に斗うように呼びかける。

「課題と基本戦術の一致にもとずく共斗」の下、11月総評ストライキと連帯し、大衆的決起でもって闘うことが、佐藤訪米阻止斗争の一つの主要な任務であり、その様な闘いの中でこそ、前述した展望を現実化させうる力関係を打築とうることを確認するならば、はっきりと、全共斗・民青の「斗い」を拒否しなければならない。

佐藤訪米阻止学生共斗

市大実行委